

平成26年度 指定管理者モニタリング結果及び評価シート

評価期間 平成26年4月1日 ～ 平成27年3月31日

施設状況

施設名称	ふじみ野市立大井デイサービスセンター	所管課	高齢福祉課
指定管理者名	医療法人社団 富家会	施設分類	保健・福祉施設
指定期間	平成24年4月1日 ～ 平成28年3月31日	利用料金制導入	利用料金制のみ
導入年月日	平成24年4月1日	指定回数	1回
施設設置目的	高齢者に対し、その心身の健康保持及び生活の安定のために必要なサービスを行うための施設として設置する。		
施設概要	【開設】平成14年10月 【延床面積】387.13㎡(大井総合福祉センター内) 【主な施設】機能回復室、食堂、日常生活訓練室、休憩室、相談室、シャワー室等		
管理運営の基本方針	(1) センターの設置目的である、高齢者に対し、その心身の健康保持及び生活の安定のために必要なサービスに寄与できるよう管理運営を行うこと。 (2) 公の施設として、その利用に際して平等かつ公平な管理・運営を行うこととし、特定の団体等に有利あるいは不利になるような取扱いをしないこと。 (3) 質の高いサービスの提供と効率的な業務の執行により、施設の特徴を最大限活用できるよう、創意工夫に基づく効果的な管理運営を目指すこと。 (4) 地域住民や利用者の意見・要望等を真摯に受け止め、利用者サービスの向上に努め、施設の利用促進を図ること。 (5) 施設・設備の内容を十分に把握したうえで、すべての施設・設備を清潔かつその機能を正常に保持し、施設利用者に快適で安全な利用を供することができるよう適正な維持管理を行うこと。 (6) 個人情報の保護や各種法令遵守を徹底するほか、危機管理意識に基づく健全かつ安全な業務執行を図ること。 (7) 管理運営費の節減に努めること。		
指定管理者の主な業務	通所介護(デイサービス)、介護予防通所介護 ※介護保険事業		

【評価項目】

【評価基準】 5: 目標値以上の結果で、指定管理者のノウハウや努力等によるところが大きいと評価できる場合 / 4: 目標値以上の結果(5以外) / 3: 目標値に達している場合 / 2: 目標値をやや下回る場合 / 目標値を大きく下回る場合

1 指定管理者の健全性

施設の設置目的や市が示した基本方針、また、自ら提案した内容に沿った管理運営であったか また、団体の財務状況や組織体制は安定していて、施設管理を継続的、安定的に行うことができるか	評価
特記事項 (問題等があった場合)	3

2 施設の有効活用

施設利用状況	利用区分等	予定(計画・目標) 単位	利用実績 単位	対前年比	年度目標達成率	評価
	通所介護	6,384 人	5,833 人	106.7%	91.4%	
予防介護	350 人	332 人	90.5%	94.9%		
全体	6,734 人	6,165 人	105.7%	91.6%		
(特記事項) 年度目標には到達しなかったが、2年連続で対前年度利用者数が増加し、概ね有効な活用がなされている。						
事業実施内容	区分	協定内容・指定管理者提案	追加事業、未実施事業及びその理由			
	市指定事業	(1)生活指導に関すること。 (2)機能訓練に関すること。 (3)介護サービスに関すること。 (4)介護方法の指導に関すること。 (5)健康状態の確認に関すること。 (6)送迎に関すること。 (7)給食に関すること。 (8)入浴に関すること。 (9)他に法に基づき厚生労働省令で定めるものに関すること。	全て予定通り実施。 利用者の『本気』をより引き出し、自立支援に繋げていくため、「生活動作は全てリハビリに繋がる」という考えを基本に、出来る限り利用者が行うよう全てのサービスを実施。 利用者及び職員が在宅生活の自立を常に意識して様々な取組を実施。 平成26年度の新規事業で、『施設内通貨』のサービス事業を実施。 内容は、施設内の仕事(洗濯物、コップ洗い、調理、裁縫等)を実施するもので、この施設内通貨を報酬として受け取ることができる。施設内での殆どのサービスを受けるにはこの通貨を使用。通貨の管理、支払い、受取りをすることもリハビリの一環となっている。			
自主事業	イベント・レクリエーション ・年間行事等 4月 お花見会・7月七夕会 8月 夏祭り・9月 敬老会 10月 運動会・12月 クリスマス会 1月 新年会・2月 節分・3月 ひな祭り ※利用者誕生会を毎月開催 ※ご当地メニューによる食事提供や関連クイズなどを毎月開催	全て予定通り実施。 追加事業として、より実生活に近い環境を再現し、楽しみながら自立支援に繋げるため、月2回のペースで、外部より演奏等のボランティアを招致し、「演奏を観に行くにはチケットを購入する」ということで、前述の通貨にてチケットを購入することにより参加できる制度を採用。				
サービス向上の取組	平成26年9月から導入された「施設内通貨」システムの見直しを月1回実施。このシステムについてのパンフレットを作成し、事業所、利用者へPRを行う。					

3 利用者評価

区分	内容		評価
利用者の要望把握	(1) 利用者要望把握方法	アンケート・連絡帳・聞き取り	4
	(2) 調査、会議等の内容	【実施時期】平成26年6月・9月・12月・平成27年3月 【調査方法】施設利用者に対し、アンケート調査を実施。【回答数】6月53名・9月57名・12月61名・3月63名 【調査項目】介護・機能訓練・入浴・送迎・アクティビティについて	
	(3) 調査、会議等の結果	平成27年3月実施アンケートの結果 【満足】82% 【やや満足】12% 【普通】6% 【やや不満/不満】0%/0%	
利用者からの評価・要望・苦情等	(1) 良好とする評価	・生活の一部になっている。 ・職員さんが明るくて楽しい。 ・ごはんが他の施設と比べて美味しい。 ・カジノが楽しい。 ・裁縫のやりがいがある。裁縫で他の人の服を直してあげたい。 ・通貨をもっと稼いでみたい。	4
	(2) 苦情・改善等の要望事項	・送迎の時間が、日によって早かったり遅かったりすることがある。 《対応措置》 ・送迎前に、電話連絡にて目安の時間をお伝えしています。	

4 事業収支

事業収支 (単位:円)	指定管理者収支(平成26年度)				市の収支				評価	
	年度計画額		収支実績額		平成26年度決算		平成25年度決算(前年度)			
	項目	金額	項目	金額	項目	金額	項目	金額		
収入	利用料金	65,424,000	利用料金	58,231,000	歳入	施設使用料		施設使用料		2
	指定管理料	0	指定管理料	0		行政財産使用料		行政財産使用料		
	自主事業※	0	自主事業※	0		国庫支出金		国庫支出金		
	その他収入	1,800,000	その他収入	1,807,000		県支出金		県支出金		
						その他		その他		
	計	67,224,000	計	60,038,000		計	0	計	0	
支出	人件費	54,600,000	人件費	54,120,000	歳出	修繕料		修繕料		
	設備管理費	1,000,000	設備管理費	1,016,000		保険料		保険料		
	備品購入費	200,000	備品購入費	150,000		指定管理料		指定管理料		
	修繕費	300,000	修繕費	150,000		業務委託料		業務委託料		
	光熱水費	4,500,000	光熱水費	4,507,000		土地・建物賃借料		土地・建物賃借料		
	事業費	1,680,000	事業費	1,150,000		その他		その他		
	事務経費	1,300,000	事務経費	1,020,000						
	本社経費	0	本社経費	0						
	その他	0	その他	0						
	計	63,580,000	計	62,113,000		計	0	計	0	
損益	3,644,000		△ 2,075,000	差引	0		0			
※自主事業は該 当箇所のみ記載 すること	自主 事業 ※	収入	0	収入	0					
		支出	0	支出	0					
		自主事業損益	0	自主事業損益	0					
人件費比率【人件費/指定管理者事業支出】								87.1%		
本社経費が、計画額と実績額で異なる理由										

5 管理運営全般 ※すべて「適」で「3」。「4」「5」とする場合は、評価理由欄に理由を記載すること。

区分	確認内容	適否欄	評価
職員配置	1 施設管理運営に必要な人員が適正で有効に配置されているか	適	3
	配置実績 (1)管理者兼生活相談員1名、(2)生活相談員1名、(3)看護職員2名、(4)機能訓練指導員2名、(5)介護職員7名、(6)栄養士1名、(7)調理員5名		
	2 専門性を備えた職員、有資格者が必要に応じて配置されているか		
	3 労働関係法令を遵守し、職員の適正な労働条件を確保しているか		
平等利用	4 職員の資質・能力向上を図り、施設を適切に運営するための取組みや研修がなされたか	適	3
	1 特定の団体や個人に偏らない、公平・公正な、透明性の高い運営がなされたか		
経理	2 利用許可、減免等の事務手続きが適切に行われたか	適	3
	1 施設の管理運営に係る収支の内容や、指定管理料、利用料金等の取扱いは適切に行われたか		
施設・備品の維持管理	2 収支内容等を記載した帳簿を整備しているか	適	3
	1 必要とされている保守、点検、清掃、保安、警備等、必要な維持管理業務が確実に行われたか		
その他	2 備品は台帳、目録等を整備の上、管理が適正に行われたか	適	3
	1 日常的、定期的に業務の点検、監視が行われたか		
	2 事業計画・報告書、予算書・決算書や、施設の利用状況などの定期報告、点検・検査結果報告などが適切な時期に提出されたか		

6 危機管理体制 ※すべて「適」で「3」。1箇所でも空欄の場合は「1」。「4」「5」とする場合は、評価理由欄に理由を記載すること。

区分	確認内容	適否欄	評価
安全対策	1 危機管理マニュアルが整備されているか	適	3
	2 危機管理マニュアルの内容が職員に周知されているか		
	3 常に、日常の事故防止などに注意を払っているか		
個人情報保護	1 施設の利用者の個人情報を保護するための対策が適切であったか	適	3
防犯、防災対策	1 防犯、防火などの対策、体制が適切であったか	適	3
	2 防災訓練など、必要な訓練が実施されたか		
緊急時対応、体制	1 事故発生時や非常災害時の対応などが適切であったか	適	3
	2 必要な保険に加入するなど、利用者などからの損害賠償請求への対応措置が講じられているか		

7 施設の設置目的の達成に関する取組

区分	具体的な取組の状況・実績	評価
自立支援に向けての取組	【在宅生活維持の為に、在宅生活を想定した機能訓練・アクティビティを実施】 ◎機能訓練・・・自宅の階段や段差、衣服の着脱等、より実生活を想定した訓練を個別に実施。 ◎アクティビティ・・・実生活を想定したアクティビティを実施。例をひとつ挙げると、独居男性で洗濯を自身で行えない方に対し、『洗濯アクティビティ』として、施設の設備(洗濯機)を使用し、職員付き添いのもと洗濯を行っています。	4
生きがい作り	【本気を引き出す為に】 デイサービスが生きがいの場所になる為には、意欲的に通所して頂く必要があります。そのために「本気になれる」取組を用意。前述した施設内通貨に付随して、その通貨を報酬として受け取れる「仕事」を担当して頂きます。コップ洗い、コーヒーの豆挽き、用具の修繕、制作物(カゴ、裁縫物等を販売)。それぞれの担当を持つことにより、「まだ出来る」という自信と本気を引き出すことができます。※施設内通貨は、現金と関連するものではありません。	
利用者の人物像を理解	【利用者様の人生に関わる者として】 利用を開始される際は、必ずその方がどのように人生を歩まれてきたかを可能な限りお聞きします。職歴から嗜好品まで、要介護状態により、今は必要とされない物でも、その方らしく過ごす為のヒントがある可能性があります。また、利用中のお姿を少しでも具体的に残す為に、連絡帳にはその方が発した言葉、表情を出来る限り詳細に記します。活動中の様子を撮影し、その日のうちに連絡帳に封入することもあります。当施設で過ごして頂いた人生の軌跡をしっかりと残り、利用者にもご家族にも伝えていきます。	

総合評価

【総合評価】 S:極めて優れている/A:優れている/B:やや優れている/C:適正である/D:努力が必要である/E:改善が必要である

評価項目		評価	総合評価		保健・福祉施設
総合評価	指定管理者の健全性	3	D		
	施設の有効活用	4			
	利用者評価	4			
	事業収支	2			
	管理運営全般	3			
	危機管理体制	3			
	施設の設置目的の達成	4			
	評価理由	収支状況が赤字となっている点で評価が「D」となっているが、前年度よりも赤字額が半分に減少しており、利用者数も2年連続で増加している。事業についても、利用者の自立支援、生きがいづくりに主眼を置き、指定管理者の創意工夫による運営がなされ利用者から高い評価を得ている。収支以外の総合評価では「B」と捉えている。			
取組・改善案等 (施設所管課)	前年度からの課題・改善事項	実施状況	次年度へ向けての目標・取組・改善事項		
	<ul style="list-style-type: none"> 施設利用状況において、目標利用者数に達しなかったため今後は広報やホームページ等で周知が必要である。 利用者数が増加すれば事業収支についても黒字となるため、今後の対応が重要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 居宅介護支援事業所等を訪問し、施設のPRを行った。 事業の充実やきめ細やかな対応を行っていることにより利用者数が年々増加傾向にある。 	<ul style="list-style-type: none"> 施設利用状況において、目標利用者数に達しなかったため今後も広報やホームページ等での周知、居宅介護支援事業所等へのPRを引き続き行い、一日平均24名程度の利用者数の確保を目指す。 平成26年度より新たに取り組んだ「施設内通貨」による自立支援・生きがいづくりの取り組みについて、その有効性・利用者満足度等の検証を図り、更なる事業の充実に努める。 		

【指定管理者自己評価】

指定管理者自己評価

(1) 評価期間の取組に対する評価

① サービス向上に向けての取組

通所意欲の向上と、自立支援に向けてのサービス強化を実施。施設内通貨制度を導入し、カジノ(スロット・トランプ・ルーレット)・ソウイングルーム(裁縫、ハワイアンキルト等)をメインアクティビティとした。メインアクティビティを望まない方には、個別で取り組める活動(カゴ作り、選択、切り絵、脳トレ等)を実施した。大きな変化としては、これらのアクティビティを、利用者様自身が日々「選択して行える」ということ。それぞれの利用目的に合わせて、楽しみたい方は本気で楽しみ、在宅生活の為のリハビリを行いたい方は本気で行える環境を整えた。これにより、「行かされる」から「目的を持って通う」ことが出来ていると考えられる。

また、これらの活動の様子を、連絡帳に詳細に記入。従来は一日の様子を簡潔にまとめた表現だったが、利用者様の発言内容や表情を記すようにし、撮影して連絡帳にファイリングしている。この記し方は、利用者様本人・ご家族ともにご好評を頂いている。

② 業務の効率化に対する取組

利用者様がアクティビティを選択できるようになり、対応する職員の配置を考慮した。「生活動作は全てリハビリに繋がる」という考えを基本に、出来る限りは利用者様に行って頂くよう全てのサービスを実施しているため、過介助で自立支援を妨げることのないように対応。職員は事故が無いよう、見守ることを中心に配置。効率よくアクティビティを実施することが出来た。

③ その他

医療法人が母体というメリットを生かし、インフルエンザ等の感染症・熱中症等の注意喚起を実施し、施設内及びご家庭での健康管理を促進。

施設内での感染症拡大等を起こすことは無かった。

利用者様の体調変化が無いが常に意識し、変化があった場合はご家族を含めた関係機関と即時連携を取り、早期の対応を行っている。

また、利用者様の自主性を尊重する為に見守ることが多くなる分、転倒等の事故が無いよう職員同士の連携を図った。

(2) 管理業務実施上の課題

平成24年度より指定管理者を受託するにあたり、介護保険制度に則った料金体系とし、管理運営費は全て1割の本人負担利用料及び9割の介護給付費で賄うこととし、定員を20名から30名に増員した。利用者数については、平成24年度1日平均17人から毎年度増加し、平成26年度では1日平均21人となっている。しかしながら、収支においては改善してきてはいるものの、平成26年度においても赤字となっていることから、施設のPRや魅力的な運営を図り、利用者を増加させ収支のバランスをとることが課題である。

平成26年度の新規事業の「施設内通貨制度」が、どのような要介護状態の方でも利用できることをアピールできるように、新規利用者に対してシンプルに説明していく。

(3) 次年度以降の取組

施設内通貨制度採用後、徐々に利用者数は増加している。当施設の取組みを更に各居宅介護支援事業所に周知し、自立支援の輪を更に広げていく。